

「音楽表現」の授業改善を手がかりとした 「幼児と表現」における学習方法に関する一考察

仲嶺まり子 安部えつ子 古庄 舞子¹ 秋元 文緒²

【要旨】

平成29年11月に教育職員免許法施行規則の改正により幼稚園教諭養成課程では「領域および保育内容の指導法」区分が新たに設置され、モデルカリキュラムが示された。モデルカリキュラムにおいては専門的内容と指導法の一体的な学びが求められていることから、平成31年度開設の本学の当該区分新設科目「幼児と表現」における学習方法の探求を目的に、旧科目「音楽表現」における授業改善の取組を再検証し、手がかりとすることにした。旧科目「音楽表現」における「学習の動機付け」「相互学習」「コミュニケーション体験」の3つの視点を取り入れた授業改善の取組（平成24年度～平成28年度）に関する再検証の結果、これらの学習方法が学習への積極的な参加と授業活性化に効果的であることが示され、新設科目「幼児と表現」における活用の有用性が認められた。

1. はじめに

本学では、各期末に担当教科を対象とした学生による授業評価アンケートが実施されている。履修者は、各項目を5段階評価で回答し、自由記述欄に感想と改善してほしい点を記載するようになっている。平成23年度（2011）に実施されたアンケートにおいて、保育士養成課程の改正を受け筆者が新規に担当した「音楽表現」（1年前期）の評価が、学生自身に関する設問（Q1）7項目、教師に関する設問（Q2）10項目のうち6項目において平均を下回っていた。一方、自由記述からは、授業を楽しんで受講している様子が窺われた。

筆者は、保育者を目指す学生には、まずは音楽を楽しんでもらいたいという思いを持って授業に取り組んでいたが、各回の学習内容の充実や目標の意識化を図るためには、それらを具体

的に伝える手段が必要であること。また、学生が学習内容の理解を深めるためには、自主的な授業参加の促進と自主学習課題の具体的な学習方法の提示が必要であると考え、それらの課題解決と授業活性化を目的に平成24年度（2012）から平成28年度（2016）にかけて「音楽表現」の授業改善に取り組み、授業評価ポイントの上昇など一定の成果を上げることができた。

そのような状況下、内閣府・文部科学省・厚生労働省により平成29年3月31日告示・平成30年4月1日実施で、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂、「幼稚園教育要領」の改訂、「保育所保育指針」の改定が行われた。

今回の改訂・改定での基本的な考え方として、保育は「環境を通して行うものであること」、育みたい資質・能力として「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学

¹ 初等教育科ピアノ非常勤講師

² 埼玉大学・昭和女子大学

びに向かう力、人間性等」、小学校との円滑な接続を図るものとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が共通して示された。また、教育職員免許法の一部改正が平成28年11月、平成29年11月には、教育職員免許法施行規則の改正が行われたことに伴い教員養成の全国的な水準確保のために、すべての大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を明確化した「教職課程コアカリキュラム」が示された。

これらの改正により、旧幼稚園教諭養成課程における「教科に関する科目」と「教職に関する科目」区分が撤廃され、専門的内容と指導法を一体的に学ぶ「領域及び保育内容の指導法に関する科目」区分となった。その他、「教育課程及び指導法」区分の撤廃により旧「保育内容の指導法」は、「領域および保育内容の指導法」区分に整理された。

このような改正を受け、本学においても「新幼稚園教諭養成課程」の編成が行われ、「教育課程及び指導法」区分の撤廃による「音楽表現」の削除、「領域および保育内容の指導法」区分に「幼児と表現」が設置されることとなり、平成31年4月（2019）より新課程によるカリキュラムがスタートした。そのため、筆者等が担当することとなった新設科目「幼児と表現」の授業内容及び自主学習課題のための学習方法の手がかりとして、旧科目「音楽表現」における授業改善の取組を参考にすることにした。

2. 問題の所在

今回の改正では、「領域に関する専門的事項」に関するモデルカリキュラム及び「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」の教職課程コアカリキュラムとモデルカリキュラムが示され、それらの内容を踏まえた授業内容の構築が求められている。これらのカリキュラムは、文部科学省の委託を受け、（一社）保育教諭養成課程研究会が調査研究をおこなったも

のである。モデルカリキュラム「幼児と表現」では、表1. にあるように全体目標・一般目標・到達目標が示され、それらを踏まえ授業内容を構築していかなければならない。

本学での「幼児と表現」の担当は、音楽表現・造形表現・身体表現系の教員が予定されており、そのため、それぞれの専門を活かしつつ保育における幼児の表現の理解を深める授業を模索していかなければならない。併せて、各分野の知識・技能の獲得も必要不可欠である。このように、新課程における「幼児と表現」を担当する教員には、専門的内容と指導法を一体的に学ぶための授業の構築に向けて、保育における専門分野に関連する子どもの表現する姿の見出しや受け止め、共感についての研究がこれまで以上に求められるようになったのである。

3. 研究の目的

本研究は、平成31年度（2019）新設科目「幼児と表現」における主体的な学習に効果的な授業手法の探求に役立てることを目的に、平成24年度（2012）から平成28年度（2016）にかけておこなった旧科目「音楽表現」における授業改善の取組を再検証するものである。

4. 「音楽表現」における授業改善

平成23年度（2011）新規担当科目「音楽表現」での前述の「授業評価アンケート結果」を受けて、平成24年度（2012）より次のような授業改善に取り組んだ。改善の方向性として、「学習の動機付け（学習意欲）」「相互学習（学生相互のやりとり）」「コミュニケーション体験（グループ活動）」の3つの視点を基本に改善内容を考案した。

まずは、「学習の動機付け」として「学生自身による3つの授業目標の設定」、「相互学習」として「コールユングンの予習・復習の相互評価」、「コミュニケーション体験」として「グ

グループによるこどものうたの模擬指導」に取り組むことにした。平成24年度（2012）は「学生自身による授業目標設定」を中心とした改善、平成25年度（2013）は「コールユブングンの相互評価」を中心とした改善、平成26年度（2014）は「コールユブングンの相互評価における観点」の改善、平成27年度（2015）と28年度（2016）では、先行の改善に加え「グループによるこどものうたの模擬指導」の改善に取り組んだ。これらの取組は旧課程最終年度の平成30年度（2018）まで継続して実施した。

4-1. 改善の取組と結果

授業改善に向けて、教材や主な授業内容の変更は行わず、学習方法の改善による授業活性化を目指すこととした。授業活性化の評価は期末の授業評価アンケートのポイント（5段階評価）によりおこなうこととした。

（1）3つの自己目標の設定

学習の動機付けとして、まずは、「学生自身による授業目標設定」による改善に取り組んだ。初回の授業においてシラバスの内容を参照し、①授業達成目標 ②授業参加目標 ③自主学習目標を設定し、授業参加への動機付けをおこなった。3つの自己目標については、定期的（1ヶ月に1回）な達成度評価を全4回実施し、各目標への意識の定着を図った。

（2）相互評価と観点提示

「コールユブングンの相互評価」においては、各時限で取り扱う曲番号をシラバスに記載し、時間外学習を指示した上で、復習曲と予習曲の相互評価を実施した。さらに、時間外学習においては、コールユブングンの「CD録音」を課題とし、予習復習と相互評価との関連の強化を図った。また、評価については、プレス・リズム・音程の3つの観点を提示し、3段階評価による観点別評価と総合評価をおこなった。

（3）こどものうたの模擬指導

「グループによるこどものうたの模擬指導」では、少人数（4人）による指導者交替制とし、全員に指導者役を課した。模擬指導の評価では、話し合い及び発表時の参加度について5段階による自己評価を実施した。

（4）授業評価アンケート結果

上記のような授業改善を実施した結果、平成24年度（2012）～平成30年度（2018）における「音楽表現」の「授業評価アンケート」では、Q1.の学生自身に関する設問及びQ2.の教師に関する設問において、ほぼ全項目に渡って平均を上回る結果が見られ、ポイントの向上が認められた。特に平成30年度前期「音楽表現」授業評価アンケート結果は、Q1.において総合全体平均4.52に対し4.81、Q2.においては総合全体平均4.48に対し4.89であった。これらの結果により授業改善の取り組みの効果が示された。

授業改善の取り組み「学生自身による3つの授業目標の設定」（学習の動機付け）、「コールユブングンの予習・復習の相互評価」（相互学習）と「観点の導入」のそれぞれの取り組みとその効果についての詳細は、第67回（2014）、第68回（2015）、第69回（2016）保育学会においてポスター発表による報告を行った。「グループによるこどものうたの模擬指導」（コミュニケーション体験）については、活動後のアンケート調査による検証結果を以下に報告する。

4-2. こどものうたの模擬指導

コミュニケーション体験を通じた自己表現力の向上と学び合いを目的に、グループによる「こどものうたの模擬指導」を行い、それらの効果の検証手段として、発表後にアンケート調査を実施した。

1. 実施時期 平成28年5月～6月
2. 対象 初等教育科1年C組47名
有効回答47名（全項目記入）

3. 準備授業 3コマ（指導案作成含む）
4. 発表授業 3コマ
5. 発表時間 15分
6. その他の制約
 - ① 4人制グループ（もしくは3人）
 - ② 全員指導者役の交替制
 - ③ 指導曲は本学のピアノの弾き歌い課題曲から選曲
 - ④ 視覚教材の活用
7. 自己評価アンケートの実施

発表後、質問紙（表2.）によるアンケート調査を実施。

4-3. こどものうたの模擬指導のアンケート結果と考察

アンケートは、5段階評価と記述様式による回答とし、個人を対象とした項目（設問1～5、9～10）、グループを対象とした項目（設問6～8）を設定した。

「総合評価」の結果は平均21.9で、総合計25点の約85%であることから、活動を好意的に受け止めていることが窺われる。設問1.「話し合いへの積極的参加」についての評価は平均4.4で、ほとんどの学生が積極的に話し合いに参加したと推察できる。設問2.「発表への積極的参加」についての評価は平均4.3で、設問1.同様、発表への積極的姿勢が見られる。設問3.「他グループの発表を楽しんだか」については平均4.5で、他者の発表への協力的な姿勢と関心を持っていることが分かる。設問4.「グループでの交流」についての評価は平均4.4で、準備時間等や発表を通して交流できたことが推察される。設問5.「同じメンバーでの再活動」についての評価は平均4.2と良好な評価ではあるが、他の項目にはない2点評価があり、考え方や受け止め方の違いを窺い知ることができる。

グループに対しての設問項目6～7.につい

ては、各グループの曲に応じてペープサートや歌詞表、被り物などを用意し、歌のイメージの可視化が図られ小道具活用のための協力体制や活用を楽しんでいる様子を窺い知ることができる。それらを踏まえ、設問8の「小道具の利活用効果」では、3点が1グループあるものの概ね肯定的評価と受け止められる。

設問9.の準備や話し合い時の感想を記す自由記述では、「協力してくれない人がいた、不安があった、あまり話し合いができなかった」の記述も見られたが、「たくさんの意見、いろいろな意見、いろいろなアイデアが出た」という記述も多く、活発な意見交換がなされたことが推察できる。設問10.の発表後の自由記述では、「緊張した、恥ずかしかった」など人前での発表に対する心情、「上手くできなかった、上手くできた、もっと練習すればよかった」など発表に対する評価と反省が記載されていた。

また、模擬指導ではグループ間の相互評価をおこなっているが、「指導内容・チームワーク・発表技術・小道具の活用・全員が指導者を担当したか」など、チームでの役割や発表に協力する姿勢、道具の活用などを評価することで、出来映えのみの評価に偏ることのないよう多角的な視点を提示している。全員が指導者役を体験することで、人前で話す恥ずかしさ、難しさが理解できるようになり、相互評価では、友人の発表への賛美共感するコメントが多く、そのような点においても、模擬指導はコミュニケーション体験として効果的なグループ活動と考えられる。

5. まとめ

本研究は、幼稚園教諭養成課程及び保育士養成課程の改正を受けて平成31年度（2019）より新設された「幼児と表現」科目における学習方法の手がかりとして、平成24年度（2012）から平成28年度（2016）にかけておこなった旧科目

「音楽表現」における授業改善の取組を再検証したものである。授業改善の方向性として、「学習の動機付け（学習意欲）」、「相互学習（学生相互のやりとり）」、「コミュニケーション体験（グループ活動）」の3つの視点を基本に改善に取り組んだ。その結果、これらの方法により学生の授業参加度の向上が図られ、授業活性化に効果的であることが示された。

これらを踏まえ、今回の改正では、専門的内容と指導法を一体的に学ぶことのできる授業が求められていることから、これらの学習方法の研究とさらなる活用を図り、「幼児の表現」を受け止め、共感できる感性豊かな保育者の育成を目指して行きたいと考えている。

参考文献

- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 平成30年3月 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 平成30年3月 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説』 平成30年3月 フレーベル館
- ・一般社団法人保育教諭養成課程研究会 『平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—』 平成29年3月
- ・仲嶺まり子・後藤善友 「ICTを活用した「音楽表現」授業活性化の試み」 平成26年5月 第67回保育学会研究発表論文集p.489
- ・仲嶺まり子・安部えつ子 「協同学習とICTを活用した「音楽表現」課題学習可視化の試み 平成27年5月 第68回保育学会研究発表論文集p.101
- ・仲嶺まり子・安部えつ子 「ICT活用とグループ学習による「音楽表現」授業活性化の試み」平成28年5月 第69回保育学会研究発表論文集p.835
- ・石橋裕子 「初年次教育における協同学習を利用した授業研究」 2010年10月 東京福祉大学・大学院紀要第1巻第1号 p.103～111
- ・初年次教育学会編 『初年次教育の現状と未来』 2013年1月 世界思想社

表1 「幼児と表現」(新設科目) モデルカリキュラム

<p><全体目標> 当該科目では、領域「表現」に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の発達や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。</p>
<p>(1) 幼児の感性と表現</p>
<p><一般目標> 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。</p>
<p><到達目標></p>
<p>1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。</p>
<p>2) 表現を生成できる過程について理解している。</p>
<p>3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p>
<p>(2) 様々な表現における基礎的な内容</p>
<p><一般目標> 身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p>
<p><到達目標></p>
<p>1) 様々な表現を感じる、みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p>
<p>2) 身の周りものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。</p>
<p>3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p>
<p>4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p>
<p>5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p>

表2 「音楽表現」(旧科目) こどものうた模擬指導アンケート

設問1	あなたは、グループ模擬指導の話し合いに積極的に楽しんで参加できましたか。
設問2	あなたは、グループ模擬指導の発表を積極的に楽しんで参加できましたか。
設問3	あなたは、他グループの模擬指導を楽しみ、積極的に参加できましたか。
設問4	あなたは、グループの仲間と(どれほど)親しくなれましたか。
設問5	あなたは、このグループでまた活動(話し合い)をしたいですか。
設問6	(グループ代表のみ回答) 小道具は、模擬指導を行う上で役に立ったと思いますか。
設問7	(グループ代表のみ回答) 曲名・グループで作成した小道具を書きなさい。
設問8	(グループ代表のみ回答) 小道具はどのように活用しましたか。
設問9	模擬指導の準備段階での感想
設問10	模擬指導(発表)を終えての感想を書きなさい。

表3 こどものうた模擬指導アンケート結果

学生 番号	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問1 ～5の 評価点 の合計	設問6	設問7	設問 8	設問9（準備や話し合い時の感想）	設問10（発表後の感想）
1	5	4	5	5	5	24				なかなかどう指導するか決めないまま発表してしまいました。意見は出し合った。	ぐだぐだになることもあったけど、よくできてきたと思う。
2	4	4	5	4	3	20	「やきさんゆうびん」歌詞表、ペープサート（手紙、やぎ、郵便屋さん）	歌が分かりやすいように、合わせて出した。	5	話がいろんな方向にとんだこともあったが、楽しく準備できた。他の曲にしようかという案も出たけど、曲を変えなくてよかったです。	話まこともあったけど、小道具も歌もみんなが楽しんでくれて良かった。
3	5	5	4	4	5	23				どのような指導内容にするか決めるのが大変だった。	セリフが合わなかったりした。
4	5	4	4	5	4	22				たくさんの意見が出て、進めやすかった。	練習通りにできた部分とできなかった部分があった。
5	4	4	4	5	5	22				みんなそれぞれ意見を出していて、協力できてよかったと思います。	最初はぎこちなかったけど、全体的によくできた。
6	4	5	4	5	5	23	「ふしぎなポケット」歌詞表、ドラえもん、ビスケット・アイス・バナナ・どら焼き、ポケット	ポケットのうしろに箱をつけて、そこからビスケットなどを出した。友だち役でドラえもんを出した。歌詞表はみんなに歌詞表が分かるようにした。	5	みんないろいろなアイデアを出し合いながら楽しく取り組めた。指導をどのようによまめめるかなど難しいところもあったが協力できてよかった。	ちよつと失敗したところもあったけど、みんなそれぞれ役割も果たして、楽しんでくれたと思う。
7	5	4	4	4	4	21				いろいろなアイデアが出てきて、作るのには難しかったこともあったけど楽しかった。	少しスムーズにいかない部分があった。人前にはもつともつと練習や経路を間違えないといけないと思った。でもみんなが手遊びを一緒にやってくれた時は楽しかった。
8	5	4	4	4	4	21				緊張してしまっていたけど、振り付けなどしっかりできてよかった。	
9	4	5	5	3	1	18				時間があまりなかった。	もう少し準備をしておけばよかった。
10	5	5	5	4	4	23	「あめふりくまのこ」カエル、クマ、葉っぱの傘	カエルはカエルのうた、クマはあめふりくまのこで、葉っぱは傘は歌詞の中で使った。	4	皆で協力していろいろな案を出すことができてよかった。	いろいろな発表を見て、子どもの視点から見ただのいろいろなことに気づくことができた。
11	5	5	4	5	5	24				みんな意見を出して、いい発表にしようと思った。緊張してよかった。	思った通りにいかないこともあったけど、やりきれて良かった。
12	4	4	5	3	3	19				直前になってしかみんなと話し合いができてきた。	トランプパターで緊張した。
13	4	5	5	5	5	24				意見がぶつかるかな？と思ったけど、皆で楽しかった。	最後みんなで頑張ってきたことを楽しんでできてよかった。
14	5	5	5	5	5	25				みんな積極的に語や道具作りに参加してよかった。	みんな息づいたりできてよかったと思います。楽しかったです。
15	5	5	5	5	5	25	「おぼけなんてないさ」ハネルシアター、歌詞表	歌に合わせてハネルシアター（絵カード）を出した。	5	皆で意見を出し合い、道具など協力して作れたと思います。	息を合わせて絵を出したり、話し出すところがしっかりとできてきたと思います。
16	4	5	5	5	5	24				小道具を作ったり歌を教えることを考える時、なかなか話が進まず焦ることがあった。	ピアノを少し間違えて悔しかった。
17	5	4	4	5	5	23	「世界中の子どもたちが」歌詞表、ペープサート（男の子、女の子、海、空、虹、夢）、世界地図	歌の中で、歌の意味を伝えるために活用した。また、導入のクイズで使った。	5	みんな意見を出し合い、発表に向けて小道具を作ったり、準備ができた。	グループ全員で楽しんで発表ができた。
18	5	5	4	5	5	24				最初はどうなることかと思っただけど、朝早く来て小道具を作ったり、協力して完成させることができた。	楽しくみんなとコミュニケーションをとりながらできたのでよかったと思う。
19	3	5	4	5	5	22				自分ももっと積極的に意見を出すべきだった。	少し止まったが、楽しく明るくできたのでよかったと思ってる。
20	4	4	5	4	4	21				いろいろな意見が出ていて面白かった。	もう少し練習しておけばよかった。
21	3	3	4	4	3	17	「バスごっこ」動物園にいこう」歌詞表、動物のお面	自分たちで被って動物に変身した。	5	いい感じに発表できそうと思っていた。みんな話し合いができてよかったと思う。	人に何かを教えるのがこんなに難しいとは思ってなかった。練習のときより全然歌えなかったなあと思いました。
22	3	3	4	4	4	18				もう少し練習すればよかったなと思った。	あまり上手くできてなかった。
23	5	4	5	5	5	24				たくさん意見を出してよかった。	恥ずかしくてピアノを間違えた。
24	4	3	5	4	2	18				あまり話し合いが出来なかった…。	全然上手くできなかった。カンペ通りにいかに悔しかった。
25	3	3	3	4	4	17	「おつかいありさん」ありのペープサート	皆協力していたけど、自分が分かって、自分は何もしてないなかつたので次あるときは頑張りたい。	3	皆で楽しんで発表できた。	
26	5	5	5	5	5	25				色々不安があった。	側と上手くできてきたと思う。
27	4	4	4	4	3	19				アリアをどう動かすかなど決めて、楽しい雰囲気できてきた。	クダグダだったけれど楽しかった。

28	5	5	5	5	5	5	25			最初に作っていったものから、皆で改善して練習することができた。	とても緊張したけど、それぞれの役割もでき楽しかった。
29	5	5	5	5	5	5	25	歌詞と運動させて登場することで、子どもたちを楽しませるために役立てた。チャチャチャに合せて音を鳴らした。	皆で積極的に意見を出し合い、話し合っていたので良かった。	緊張したけど、笑顔で、反応してくれた人たちの声を大切に楽しんでできたので良かった。	
30	5	5	5	5	5	5	25	「おもちゃのチャチャチャ」おもちゃパーツ、おもちゃ箱、動物カチキューシャ、歌詞カード、マラカス	皆で話し合って、たくさん集まって協力して活動できたので良かった。	事前に練習していた通りスムーズにできて良かった。でも歌の音が小さかった。	
31	5	5	5	5	5	5	25	「とんでったバナナ」歌詞に合わせたキャラクターなど、歌詞を書いた模造紙	話し合いの時はみんなの反応を想像してセリフを決めたりして、一人ひとりの発言の場があって積極的に取り組めた。	緊張したけど、楽しく積極的に発表できた。	
32	5	4	4	4	4	2	19		あまり協力してくれない人がいて困った。	皆で楽しく発表ができたので良かった。	
33	4	4	4	5	4	3	20		皆の意見を聞きながら作るのには良かった。少ない時間で大変だったけど、個人個人が頑張ったので完敗できた。	もう少し工夫すればよかった。模擬指導ではなく発表になってしまった。	
34	4	4	4	4	4	4	20		ストーリーを作るのが大変だった。	あまり練習出来ていなかったけど、楽しくできた。	
35	4	4	4	4	4	4	20		発表まで時間がなくて大変で準備したけど、楽しかった。	あまり練習できないままぶっつけ本番で、歌詞の書き忘れもあり焦ったけど楽しかった。	
36	5	5	4	4	4	4	22	「もりのくまさん」歌詞表、くまさん、女の子、貝殻のイヤリング、森の絵、木	初めての発表で何をすればいいかわからずに困ったこともあったけど、皆で意見を出し合って作ることができました。	第1回の発表のときに、とても緊張したけどちゃんと楽しんでできて良かったと思います。	
37	5	5	4	5	5	5	24		みんな積極的に話し合いもとても楽しかった。	発表直前に打ち合わせ間違いがわかりどうなるかととても不安だったけど、それぞれが積極的に関わり、とてもいいものが出たと思う。	
38	5	4	5	5	5	5	24		皆で意見を出し合い、楽しく参加できた。	緊張したけど、練習通りにできて皆楽しそうに楽しかった。	
39	4	5	5	4	4	4	22		みんなで話し合っ、それぞれ自分たちで進めることを見つけて進めていけたので、良かったと思います。	声の大きさなど、もつとみんなの前に出たときは堂々とするべきだったな、と思いました。	
40	5	4	5	5	4	4	23	「木のおまわりさん」動物のパーツ、歌詞カード	どんな曲にするか迷ったり、どんな感じで発表するか考えたり、友だちと楽しく活動することができた。	恥ずかしかった。時間が短かったのも工夫すればよかった。でも楽しかった。	
41	4	4	4	4	4	4	20		なかなか進まなかった。	緊張してうまくできなかつた。	
42	4	4	5	5	5	5	24		一人休んだりしてなかなかできなかつたけど、できたから良かった。	楽しんでできたからよかった。	
43	4	4	5	4	4	4	21	「大きな古時計」時計、歌詞	歌う歌を何にするか決めるのになかなか迷った。	あまり上手くないかなかつたけど、なんとかできて良かった。	
44	4	4	4	4	4	4	20		いろんなアイデアが出てきて面白かった。	話し合いの時間が少なかったけど、アドリブでちゃんとできて良かった。	
45	4	4	4	5	4	4	21		積極的に意見が出て、まとまるのが早かった。	打ち合わせ不足で思うようにいかず困った。	
46	4	4	4	4	4	4	20		流れをつくっていくのが大変だった。	スムーズに話を進められなかったのが残念だった。	
47	4	4	4	4	4	5	21		最初は難しく考えていたけど、ちゃんとまとめることができた。	時間が余ってしまっただけど、自分たちなりに発表できたと思います。	
平均値	4.4	4.3	4.5	4.4	4.2	4.2	21.9				